第 74 回東葛しぜん研修会

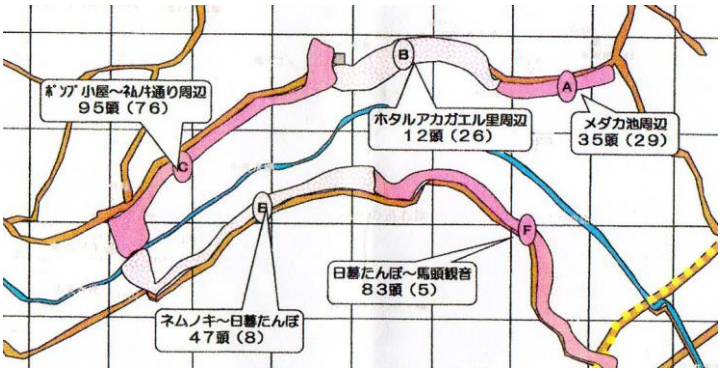
遠藤 鏡子（柏市）

ほ・ほーたる来い

日　時：2016 年 7 月 27 日（水）18 時～20 時 30 分
場　所：岡発戸・都部（我孫子市）　谷津ミュージアムでヘイケボタルを観察
参加者：12 名、担当指導員：鈴木(と)・遠藤(鏡)

夏の風物詩ともいえるホタル。近年では環境の変化により生息域が急速に減少し、昔であれば田畑のあぜ道や川のほとりで見かけられた幻想的な光景も、現代の子どもたちにとっては貴重な光景となってきました。今回は、そのホタルの生態とホタルをとりまく現在の環境を学ぶため野外研修会を行いました。ホタル観察にあたって「明かりをつけない」「大声で騒がない」「虫除け剤を使わない」など、ホタルの繁殖活動を妨げないための注意事項を説明。はじめに、谷津ミュージアムで保全活動に積極的に取り組んでいる阿部さんから、岡発戸に生息するヘイケボタルについて近年の状況：発生数推移資料を基に説明いただきました。グラフにはその年の気象状況により発生数に多少バラつきがあるものの、年々頭数は増加傾向にあるとのことで、ホタルの環境づくりについて取り組んでいることを発表していただきました。

ヘイケボタルの餌はサカマキガイやマルタニシなどで、それらを捕食しながら成長するため、雨や稲作のために放流される水量が成長に大きく左右されます。また、春先に草刈りをすることで湿地にセリが茂り、その周辺に蛍が多く発生することなどから、草丈を低く保つことで蛍が餌を容易に取ることができ、頭数の増加につながったと考えられます。

現在谷津では一年を通して草刈りや水田の水量調節に関わる周辺農家との交渉などさまざまな環境を解決する必要があり、人の手を加え続けることによって初めて維持される希少生物の場合、保護活動には未だ難しい課題が残されており、一進一退ですが、この貴重な自然環境を維持するためにも多くの方に現状を知っていただく必要があるということでした。

次に、ホタルの種類やベストシーズンなどホタル観賞の基礎知識を説明後、鈴木さんからホタルの生態に関する「ウソ・ホントクイズ」を参加者に答えていただきながら観察地点に移動。当日は気温が低く、あまり活発に活動する環境ではなかったため、頭数が確認できるか心配していたのですが、息をひそめて待っていると、次第に藪の隙間から一つ二つと小さな明かりが点り始めると、静かな歓声が沸き上がりました。日没時間 18 時 50 分、ホタルが光り出したのが 19 時 10 分頃、19 時 30 分には飛ぶ光が見えて、枝葉に留まるホタルが手に移ってくれて、感激でした。この小さな明かりを消さないよう、今後もこの活動を大事にしていきたいと思う研修会となりました。